



農業講座

しまなみ普及室だより ソラマメ(一寸蚕豆)の管理

ソラマメは、秋まき栽培が一般的で、2月から3月の開花期の晩霜により作柄が大きく左右されます。ソラマメには在来の小粒種と「一寸ソラマメ」や「お多福まめ」と呼ばれる大粒種があります。今回は、既に作付けされている一寸ソラマメのこれからの管理のポイントについて解説します。



■栽培管理のポイント

①代表品種：稜西一寸（特性：3粒莢率が高く、多収、5月中旬収穫）

②作型：露地

●ソラマメの作型

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
秋まき 栽培	移植	中旬播種		定植		2月下旬～3月下旬 開花			5月中 収穫
	直播	下旬播種				2月下旬～3月下旬 開花			5月中 収穫

■定植後管理

①整枝、誘引

本葉が5枚程度の時期に苗の先端を摘心（摘み取り）します。1月以降、株元から次々と芽を出してきますが、1株に6本から8本を伸ばし、後から出てくる芽は全て摘除します。整枝した茎は両端（幅60cm程度）にひもなどで誘引し、花に光を当てることにより着莢が良くなり、3粒莢が増加します。誘引できないときは、中心に土をしっかりと載せ、株が開くようにします。

②追肥

着莢が十分に確認できたら化成肥料を少量（1～2kg/a）株の外側に施用します（3月下旬頃）。莢の伸長期に雨が少なく土壌が乾燥する場合には、かん水も必要です。

③収穫

収穫は莢が下に垂れ下がり、莢の縫合部分を縦につまんで硬ければ収穫できます。収穫遅れは、マメの皮が固くなり食味が落ちるので適期に収穫します。

■病害虫防除

①アブラムシ

苗の時期に発生すると、ウイルス病が発生し、葉が縮み生育が停止します。アドマイヤーフロアブルが有効です。

②赤色斑点病

春先から葉や茎が赤褐色に変色します。特に雨の多い時期に発生が増加します。ジマンダイセン水和剤600倍が有効ですが、収穫前30日までにしか使用できません。



ソラマメの栽培は、茎を放任状態にしても、莢は付きますが、大きな莢を収穫するためには、説明したとおり茎を制限することが大切です。日当たりを良くすることで、大きな花が咲き、着莢が促進します。茎が倒れるのを防止するために株の両側に誘引ひもを張り、茎を支えるなどの手間をかけてやる必要があります。

また、収穫時期のカラスの被害にも注意をしましょう。